

令和４年度 施政方針

令和４年３月定例市議会の開会に当たりまして、令和４年度に臨む、施政の基本方針を申し上げ、市民の皆様、並びに議員各位のご理解とご協力を賜りたいと存じます。

（新たな時代へのまちづくりの実現へ）

新型コロナウイルス感染症の長期化は、日常生活のみならず、経済、社会、さらには人々の行動・意識・価値観にまで多方面に渡って多大な影響を与えています。

この瞬間も、感染リスクと向き合いながら、市民の命と健康を守るため、最前線で懸命な努力を続けていただいております、医療機関、福祉施設などのエッセンシャルワーカーの方々をはじめとする皆様に、改めまして深く敬意と感謝を申し上げます。また、感染拡大防止に対しては一刻も早い対応が必要とされたことから、専決処分を含めた補正予算等の決定について、市議会議員の皆様にも多大なるご理解とご協力を賜り、改めて感謝申し上げます。

市民の皆様におかれましては、長期化するコロナ禍において、日々不安を抱えながらお過ごしのことと思いますが、ご自身とご家族、そして地域の医療、経済を守るため、引き続き感染防止対策にご協力をお願いいたします。

第6波の感染拡大を受け、県内全域に適用された「まん延防止等重点措置」に伴う外出・移動の自粛や時短要請等により、市民生活や観光業・飲食業等をはじめとする市内の経済活動に大きな影響が出ております。これまでも、市の最優先課題として、国の地方創生臨時交付金等を活用した市独自の支援事業に数多く取り組んでまいりましたが、今後も地域の実状に即した対策を、適時適切に実施してまいります。

コロナ禍にありましても市民サービスが滞ることのないよう、引き続き新型コロナウイルス感染症対策を最優先に進めていくことはもちろんではありますが、厳しいコロナ禍におきましても、当市にとって新年度が更なる市政発展の契機となるよう、新たな取り組みにも積極的に着手してまいります。

（国、県の状況）

ここで、市政を取り巻く国や県の状況等を申し上げ、ご理解を賜りたいと存じます。

1月17日に閣議決定された「令和4年度の経済見通しと経済財政運営の基本的態度」では、「コロナ克服・新時代開拓のための経済対策」を迅速かつ着実に実施すること等により、実質GDP成長率は3.2%程度、名目GDP成長率は3.6%程度と見込まれており、公的支出による経済下支えの下、消費の回復や堅調な設備投資に牽引される形で、民需主導の自律的な成長と「成長と分配の好循環」の実現に向けて着実に前進していくとされています。

国の新年度予算案は、「16 か月予算」の考え方の下、令和3年度補正予算と一体として編成されており、新型コロナ対策に万全を期しつつ、「成長と分配の好循環」による「新しい資本主義」の実現を図るための予算として、一般会計総額が107兆5,964億円と、前年度当初と比べ9,867億円、0.9%増の予算規模となったところです。変異株による感染拡大等、予期せぬ状況の変化に備え、3年度予算において確保されたコロナ予備費5兆円を4年度予算においても同額計上し、高齢化に伴う社会保障関係費は4,393億円増の36兆2,735億円とされたところです。

長野県におきましては、最終年度を迎える「しあわせ信州創造プラン2.0」の総仕上げを図るとともに、コロナ禍や自然災害等により基盤が揺らいでいる「確かな暮らし」を守る施策、脱炭素社会の構築など中長期的な課題に挑戦する施策など6つの重点テーマを推進するため、令和3年度1月補正予算と一体的に令和4年度当初予算が編成されました。新年度一般会計予算総額は前年度比426億円、4.1%の増額で、過去最大の1兆849億円となり、1月補正予算を加えた「15 か月予算」の総額1兆1,735億円のうち、重点的に編成された新型コロナウイルス感染症対応分に2,192億円が当てられています。

このような状況の下、飯山市における財政は厳しい状況に変わりはありませんが、令和4年度は、第5次総合計画・後期基本計画の最終年度であり、総仕上げの年度となります。成果が問われる年度であるとともに、次の新たな飯山市の将来につなげていく重要な年度となりますので、引き続き新型コロナウイルス感染症対策、自然災害対策などへの取り組みを最優先課題とし、また、市民が安全に安心して暮らし、将来を担う子どもたちが明るい未来を想像でき、地域の発展が持続できる取り組みを推進してまいります。

市民各位、議員各位のご理解ご協力をお願い申し上げる次第であります。

（令和4年度予算概要と重点的施策）

それでは、新年度予算の特徴と、施策の概要を申し上げます。

予算総額は、一般会計で153億4千万円、前年度比11億5千万円、8.1%の増であります。歳入では、市税を前年度比1億3千2百万円、5.8%増の23億9千万円、地方交付税を前年度比3億5千万円、6.8%増の54億7千万円計上し、国県支出金のほか、ふるさと納税などの基金の活用、市債等で歳入確保をいたしました。

歳出につきましては、新型コロナウイルス感染症対策のほか、道の駅「花の駅 千曲川」の拡張整備事業や新たな小学校づくりなどの大型事業を含め、最終年度を迎える第5次総合計画・後期基本計画のテーマ「北陸新幹線を活用した観光交流人口増、地域産業の創出と育成」として移住人口、若者定住

人口増へ」を確実に実現するための施策に対し、予算の重点配分を行ったところでは。

以下、新年度の重点施策に関わる事業についてご説明申し上げます。

一つ目は、「新型コロナウイルス感染症対策」であります。

第6波の感染拡大を受け、すでに開始しておりますワクチンの3回目接種につきましては、希望する市民の皆様への接種を、引き続き迅速かつ確実に進めるとともに、国・県と緊密な連携を図りながら、感染拡大防止の更なる強化を進め、市民の安心・安全の確保に努めてまいります。

ワクチン接種や感染防止対策と並行して、市民・事業者への支援及び市内経済対策にも、引き続き取り組んでまいります。また、継続事業に加え、地域の実状を的確に捉えるなかで、新たな施策についても対応してまいります。

また、感染症の拡大は、ワクチン接種を受けられない子どもたちの学びの場にも大きな影響を及ぼしています。臨時休業や学級閉鎖等において、タブレット端末を活用したオンライン授業や新しい時代の教育に対応すべく、電子黒板導入などの環境整備に加え、ICT教育へのサポート支援などによる利活用に向けた取り組みなど、コロナ禍における学習機会の継続性の確保を図ってまいります。

二つ目は、「市内経済の振興」です。

長期化する感染症の影響や第6波の感染拡大に伴う「まん延防止等重点措置」の適用は、観光業や飲食業を中心に、市内事業者の皆様に深刻な影響を及ぼしています。このような状況にある事業者の皆様の事業継続に向け、これまでも制度融資による資金繰り支援や、プレミアム付商品券の発行支援などを通じた市内における消費喚起を図ってきておりますが、同時にウィズコロナ、アフターコロナを見据え、再び多くの方々に当市を訪れていただき、経済の活性化を図っていく必要があります。

本年秋には、道の駅「花の駅 千曲川」に農産物直売所とレストラン等の機能を兼ね備えた農業観光振興拠点施設が、新たに完成いたします。飯山の「農産物」と地元の食材を活かした「食」の充実を図り、飯山を訪れた皆様に提供してまいります。また、令和5年度の開業に向けて、道の駅に整備するアクティビティ拠点施設の建設にも着手し、総合的な道の駅とすることで、飯山市の魅力を発信するとともに、関係交流人口の増加に向けた取り組みを進めてまいります。

賑わい創出拠点として、長年の懸案でありました北陸新幹線飯山駅前市有地へのホテル誘致につきましても、昨年の基本協定により、市も支援するなかで新年度から建設が始まる見込みであり、信越自然郷の拠点となることを期待しているものであります。

三つ目は、「新しい時代に向けた取り組み」です。

「飯山の新たな学校づくり計画」に基づく城北中学校区新統合小学校の整備では、令和7年4月の開校に向け実施設計に取り組むほか、新たな通学路計画にあわせた周辺道路の整備等、新たな時代を生き抜く力を持つ子どもが育つ環境の整備を進めてまいります。

また、少子高齢化が進行する中、共同集会施設の改修等に対する支援制度を創設し、地域コミュニティの機能を高め、持続可能な集落活動を支援してまいります。

自治体DXに関する取り組みとして、新年度では、RPA（ロボティック・プロセス・オートメーション）を用いたシステム構築に着手するほか、国が進める行政手続きのオンライン化に係る環境整備により、事務事業の効率化、市民サービスの向上を図ってまいります。

環境問題の一つである地球温暖化に対しては、第3次飯山市環境基本計画の重点プロジェクトに位置付ける「2050年カーボンニュートラル（脱炭素社会）」の実現に向け、再生可能エネルギー導入ポテンシャル調査等、マスタープランの策定に取り組みます。

令和4年度は、飯山市の行政運営の最も基本となる計画、第5次総合計画の最終年度となります。10年間の成果と課題を検証し、令和5年度を初年度とする、飯山市の将来を見据えた新たな総合計画を策定いたします。

以上、新年度の重点施策の概要を申し上げましたが、その他の主な施策は、後期基本計画の施策体系に合わせてご説明申し上げます。

（そのほか主な施策 後期基本計画施策体系により分類）

一つ目は、自然共生による新しい価値観の発信についてです。

大都市で決して手に入れることのできない四季の美しさ、厳しくも豊かな自然は、飯山市にとりまして最も貴重な資源です。産業・組織・人・地域といった様々な分野における連携を通じ、飯山市ならではの素材や資源を活用し、飯山市の魅力向上と産業の振興を図ってまいります。

新年度においては、菜の花の里づくり事業等、自然共生による地域活性化推進施策に加え、飯山市にとって大切な資源である豊かな自然を未来につなげていくため、環境フォーラムの開催などを通じて環境保全意識の高揚を図るなど、環境問題への取り組みを推進してまいります。

二つ目は、飯山の四季の美しさを活用したまちづくりについてです。

豊かな自然と調和した信州の北の玄関口として、飯山駅の利用促進と機能の充実を図るとともに、歴史と自然に彩られたまちづくりを進めてまいります。

まちの玄関である駅前の賑わいづくり及び観光等の拠点づくり、また、飯山駅の利用促進を図るため、飯山駅周辺地区における宿泊施設建設に対する

支援を行うほか、回遊性のあるまちづくりへの取り組みとして、飯山城址の南大手門広場整備や堀の整備に向けた設計、交流展示館内の整備等に取り組みます。

三つ目は、高速交通網による交流の促進についてです。

春夏秋冬を通じて楽しめる、信越自然郷としてのブランドを高める広域観光エリアの形成を目指し、地域一体となった広域連携をさらに強化することにより、北陸新幹線飯山駅を最大限に活かした、エリア全体の魅力の向上を図ってまいります。

道の駅拡張整備事業による自然資源と食、アクティビティ等あらゆるものと連携した取り組みのほか、善光寺御開帳にあわせたサイクリングツアーの造成、友好都市等との交流事業の拡充により、関係交流人口の増加及び観光振興施策を進めてまいります。

四つ目は、地域産業おこしと若者定住についてです。

自然に育まれた様々な素材や資源を活かせる産業の活性化を図るため、産業の中心的存在である農業分野については、次世代の地域の農業を担う人材を確保するため、引き続き、新規就農者等に対する支援を継続するほか、新年度においては、飯山の新ブランド米の商品化に取り組んでまいります。

成果が数値となって見えてきている移住施策については、近年若年層の移

住も増加している状況であり、引き続き支援内容の充実をはじめ、情報発信力を強化するとともに、丁重な対応にて推進してまいります。

五つ目は、たくましさや郷土愛を育てる教育についてです。

「飯山の新たな学校づくり計画」に基づく城北中学校区新統合小学校整備に取り組むほか、ICT教育・英語教育や学力向上に向けた施策、ふるさと学習の充実を図るなど、飯山市学校教育の魅力づくりを進めてまいります。

平和学習事業では、新年度において、当市出身の丸山邦雄氏の功績について地域の子どもたちに伝えていくため副読本を作成し、満蒙開拓平和記念館の見学等を通し、平和の大切さについての学習を深める取り組みを進めてまいります。

また、新たな取り組みとして、2028年に開催される第82回国民スポーツ大会に向け、当市を会場として行われるカヌー競技の普及及び地元選手の育成に取り組んでまいります。

六つ目は、子どもから高齢者まで安心して暮らせるまちについてです。

全国的に少子高齢化が続く中、いつまでも健康で安心して暮らせることは社会全体の願いです。子どもを産み育てられる環境づくり、年代に応じた健康づくりや介護予防とともに、防災対策も備えを万全なものとするよう取り組んでまいります。

ワクチンの追加接種に、迅速かつ確実に取り組むとともに、地域における医療体制を確保するため、引き続き地域中核医療機関に対する支援を行うほか、医師招聘の推進に取り組んでまいります。

また、市民の健康づくり推進に向け、新年度から新たに、市の健康増進プログラムに沿ったサービスを提供する健康増進施設の整備に対し、支援してまいります。

長期化するコロナ禍において、子育てに係る経済負担や子育てへの不安感が高まっています。出産特別給付金による支援や保育の無償化に合わせた副食費の無償化など、保護者の負担軽減を図る施策を継続実施するほか、新年度からは、城北中学校区新統合小学校に併設する児童クラブ整備に取り組んでまいります。

防災対策としては、令和元年台風第19号災害等を踏まえ、市街地における雨水貯留施設の設計等、引き続き市街地雨水排水対策に取り組むほか、出水期に備えた排水ポンプの配備、また、ご要望を多くいただいております住宅耐震対策補助など、市民の皆様の安心・安全につながる施策を進めてまいります。

少子高齢化と人口減少が進むなか、行政の果たす役割も適切な見直しが必要となります。第6次行財政改革大綱の実践による、効率的で質の高い行政運営に努めてまいります。

また、毎年全国から沢山の応援をいただいております、ふるさと寄付金推進事業につきましては、企業版ふるさと納税である「まち・ひと・しごと創生寄付金」を含め、新年度において7億5千百万円の寄付金を見込んでいるところです。市内の特産品等の活性化にも大きく寄与することから、市内団体・企業・事業者等の経済振興対策と市財政の安定化に向けて、引き続き事業の推進を図ってまいります。

以上、施策の概要について申し上げました。

本市が持続可能な成長・発展を続けていくためには、「誰ひとり取り残さない」というSDGsの理念のもとに、直面する課題に迅速かつ的確に対応する必要があります。将来に渡って、全ての世代が安心・安全に暮らせる持続可能なまちづくりに取り組んでまいります。

感染拡大防止と経済活動の両立を図り、まずは一日も早く、市民の皆様が安心して生活できる日が来るよう、最大限の努力をしてまいりますので、市民の皆様の一層のご協力をお願いするとともに、議員各位のご支援ご協力を心よりお願い申し上げ、所信表明と致します。

令和4年2月

飯山市長 足立正則